

レトリックとは何か

2004 7/18 安倍富士男

参考文献

英詩理解の基礎知識 志子田光雄 金星堂 1980

詳解 英文法辞典 井上義昌編 1966

定義

話を聞く人や分を読む人の興味や同感をそそるために、言葉を整えて意義を明らかにしたり、または巧みな表現をつくる技巧をレトリックという。レトリックという言葉はもともとギリシア語の Retor (みんなの前で話す人) から出た語で、art of oratory の意味であり、はじめは主として「雄弁術」の意味であったが、今日では自分のいおうとする趣旨を読者や聴者に徹底させて、所期の効果をおさめるように言葉を使う術、またはそれを組織的に述べる学科を言う。

起源

ルネッサンス時代のイギリスのグラマースクールではレトリックが基礎学問として教えられた。古典語に対する愛着心を起こさせるとともに、自国語を再認識させるために学ばれた。そのため16世紀のイギリスではレトリックに関する書物が数多く出版され、広くよまれ盛んに技巧が学ばれるようになり、ついには風刺詩人サミュエル バトラー (1612 - 80) に次のような警句を残すに至ったという。

All a rhetorician's rules ; Teach nothing but to name his tools.

(すべてのレトリック教師の規則 何も教えることはなく、ただレトリックの名前を列挙するだけ)

今日では修辞法に関する感心は薄らいだけれども、バトラーの警句のように単に道具の名を学ぶことだけに終わるのではなく、さらに1つ1つの英語の表現とそれをういた作家との関係を考えなければならない。

3大原則

修辞法の3大原則は次のもの

Unity (ユニティー 統一)

文章全体がある目的に向かって効果的に直接関係をもつこと。

Coherence (コヒーレンス 脈絡)

文章の各部分が整然と配列されていて前後の関係がはっきりしていること

Emphasis (エンファシス 強勢)

深い感銘を与えるために、最も大切な思想を最も顕著にする配列法であり、このうち強勢の手段として用いる言葉のあやを Figure of Speech (フィギュア オブ スピーチ 詞姿) という。

この Figure of Speech はさらに次の2つに分類することが可能

Grammatical Figure (文法上の形容法) と Rhetorical Figure (修辞上の形容法)

Grammatical Figure (文法上の形容法) とは綴り字法 (Orthography) に関するものが多い。

Aphaeresis (アフィアリシス 語頭音消失) above bove

Prosthesis (プロスシシス 語頭音添加) down adown

Syncope (シンコピ 語中音消失) half penny ha penny

Apocope (アポコピ 語尾音消失) listen list

Paragoge (パラゴウジ 語尾音添加) vast vasty

Diaeresis (ダイイレシス 母音分離) cooperate

Archaism (アーケイズム 古体) Great King Gret Kyng

Rhetorical Figure (修辞上の形容法) はことばの普通の用い方を変えて、文章を明快にし、色彩と光沢を与える法である。以下には厳密に区別せずに普通の読書、作文に注意すべきおもな項目を列べてみる。

Figure of Speech

1 Simile (シミリ 直喩)

as, like, so などの語を用いてあらわに1つのものを他のものに比較する法

as brave as a lion (ライオンのように勇猛果敢な)

quick like lightning (雷のように素早く)

2 Metaphor (メタファー 隠喩)

as, like, so などの語を用いずに直接に A is B の形でズバリいうのをメタファーという

Life is a voyage. (人生は航海である)

Ye are the salt of the earth. Matthew5:15 (なんじらは地の塩である)

You are the sunshine of my life. Stevie Wonder (君は僕の人生の太陽光だ)

この例は現代英語の様々な部分で用いられている

We are in deep waters. (我々は抜き差しならぬ羽目になっている)

このような例は無数にあげることができる to make both ends meet (帳尻を合わせる) など、我々はこれがメタファーという本来の性格を意識せずに使っている。

3 Synecdoche (シネクドキ 提喩法)

一部を持って全体を、または全体をもって一部を表す法であって、Metonymy の一種。

sail(=ship) waves(=sea) 小町(美人) パン(食べ物) 花(桜)

一般に提喩は意味を強め文の調子を高めるのに役立つ

Consider the lilies of the field, they toil not, neither do they spin : yet Solomon in all his glory was not arrayed like one of these. Matthew 6:28-29

(野の百合がどうして育っているか考えてみなさい。働きもせずつむぎもしない。しかしあなた方に言うが、栄華を極めたときのソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾っていなかった。)この場合、百合でもって花を、ソロモン王で栄華を誇る権威者を述べている。

4 Metonymy (ミトニミ 換喩法)

あるものをその属性またはそれと密接な関係のあるもの(容器・作者など)で表すこと。

fond of wine (酒が好き)という代わりに fond of bottles (ビンが好き)という表現など

さらに

a 記号または随伴するもので実物に換えるもの

帝位の位や権力を crown (王冠)とか purple(紫衣)など

議長を chair (イス)と言い、戦争または武力のことを sword (剣)という類

b 結果をもつて原因に換えるもの

gray hairs (白髪)で old age (老年)を表現するといったもの

c 容器をもつて中身に換えるもの

酒を bottle (びん)と言い、飲み物を cup (杯)と言い、金銭を purse (さいふ)と言ったりするもの

実は通常の表現のように見える The kettle is boiling. (湯沸かしがたぎっている)とか、The lamp is burning. (ランプが燃えている)などの日常表現もそれである。

d 原料をもつて物体にかえるもの

絵画を丹青と言い、canvas (ズック)でテント、帆、画布、絵画を表したりする

e 作者をもつて作品にかえるもの

馬琴の小説を読むことは、すなわち馬琴を読むと言い、I am reading Shakespeare.でシェークスピアを読んでいる。

という類である。

5 Personification (パーソニフィケーション 擬人法)

6 Allegory (アリゴリ 風喩)

暗に他のものを指し、あるいは風刺しながら、それを表面に表さないで、首尾一貫して独立した文章や物語をなすもの

Allegory の代表的なもの

バニヤン ピルグリム・ファーザーズ スイフト ガリバー物語

なお、Allegory には次のような種類がある。

a Fable (フェイブル 寓話)

動物や無生物などを登場させ、人間の特性を風刺して処世上の教訓を旨とする作り話。

イソップ童話

b Parable (パラブル たとえ話)

日常生活に実際にありうることを話題にした特に道徳的、宗教的な教訓を含むたとえ話。特に聖書の中の Allegory をいう。Parable of the Prodigal Son (放蕩息子のたとえ)

c Apologue (アポログ 教訓 寓話)

東洋的の連想の多いもので Moral Fable とも言われる。コリント人への手紙 I 第 12 章

7 Allusion (アリュージョン 引喩)

古人のことばまたは故事・典故などを引いて文章を飾って趣を増すこと。

何から引用したかを明示する Direct Allusion (明示法)と暗にほのめかす Indirect Allusion (暗引法)がある。普通は後者を指す。

8 Transferred Epithet (トランスファード エピセツト 転喩)

本来属すべき語から離れて他の語の修飾語として用いられた形容詞を指す。例えば、He lay all night on his sleepless pillow. (彼は一晩中眠れぬ枕についていた)においては、sleepless は文法上 pillow を修飾するが、意味の上では He lay の補語のように用いられている。このように本来は人(person)を修飾すべき性質形容詞(Epithet)をものに対して修飾させることを言う。

9 Onomatopoeia (オノマトピア 擬声・声喩)

自然の声や事物の音をそっくりまねるような語句・文章・表現法を言う。Crows caw.(鳥はカアカアと鳴く)tick-tack (時計のチクタク)

10 Hendiadys (ヘンダイアディス 重言法・二詞一意)

二つの語が意味の上では主従の関係にあるものを、形式の上では対等の位置を与えて and で結ぶもの。すなわち「形容詞+名詞」や「副詞+形容詞」で表すべきものを「名詞 and 名詞」または「形容詞 and 形容詞」の形で表すこと。

例 goblets and gold (=golden goblets 酒杯) Shakespeare はこれを好んで用いたという。

11 Periphrasis (ペリフラシス 迂言法)

ことばを多くして間接に遠回しに表現すること。Circumlocation (回りくどい言い方)とも言う。

go the way of the flesh (肉体の道を逝く =死ぬ) Bible

night s candle (夜のろうそく =星)

主として複合語または語群で、人や事物をえん曲に言い表す Kenning (ケニング 代称) も迂言法の一つである。例 the muddy nation (泥だらけの国 =カエル)

1 2 Euphemism (ユーフィミズム えん曲語法)

露骨な言い方をしないで当たり障りのない上品な言い方をすること。主として深い事や忌み嫌うべき内容の明言をはばかるときに用いる。「君の死後」という代わりに「君百歳の後」、「死んだ」の代わりに「ついに起たなかった」というような言い方である。この用法の起源は一種の Taboo word (禁忌語) であると考えられる。

She is plain. (彼女は平凡だ) She is ugly. (彼女は不細工だ。)

日本語でも「死ぬ」の代わりに「物故する、倒れる、息を引き取る、瞑目する、世を去る、など多数ある。

1 3 Pleonasm (プリオナズム 冗語法)

必要以上の語を用いて表現すること。Tautology (トートロジー 類語反復) とも言うが Pleonasm は特に強調効果をねらって故意に言うことが多い。

I saw the wound, I saw it with mine eyes. (私はその傷を見ましたよ。この目で確かにみましたよ。) Romeo and Juliet

1 4 Expletive (エクスプリーティブ 虚辞)

単に形式的な語として、修辭的なあるいは韻律的な理由から口調のためによく用いられほとんどあるいは全く意味のない語句を言う。

Once there lived an old man. (there は虚字の there)

It was found that he was innocent. (虚字の it)

1 5 Oath (オース =Swearing スウェアリング 誓言)

神聖なものにかけて誓う言い方で Chaucer や Shakespeare は巧みに利用している。

I swear to thee *by Cupid's strongest bow*. キュービッドの強い弓矢にかけて君に誓う。

1 6 Alliteration (アリタレーション 頭韻法)

詩では同じ行のいくつかの語の強勢のおのおのが同一の子音で始まることを言う。古代英詩の大きな特徴であった。

Fair is foul, and foul is fair : Hover throught the *fog* and *filthy* air.

(きれいなのが汚く、汚いのがきれいで、霧や汚い空気の中をうろろしている)

Macbeth の冒頭で魔女たちが呪文を唱えるようにして語ることばで、これも雰囲気を出している

1 7 Antithesis (アンティセシス 対照法)

相反する、または相対する語句や思想を対照的に置いて対比の感を強くする法。Contrast (コントラスト) とも言

う。この技法は和漢文には非常に多い。ことに漢文では対照法の連続と見られるようなものもある程である。

春山万花之艶、秋山千葉之彩

Man proposes, God disposes. 計画は人にあり、成敗は神にあり

1 8 Paradox (パラドクス 逆説)

一見しては非論理的に見えるが、よく考えると論理的で真理を含んでいる言い方。

In the midst of life we are in death. 生のうちに死がある

The child is the father of the man. Wordsworth 子供はおとなの父

1 9 Asyndeton (アシンデイトン 連辞省略)

あってもよい接続詞を省略することで文章のテンポを速め

2 0 Irony (アイロニー 反語)

2 1 Hyperbole (ハイパボリ 誇張法)

2 2 Litotes (ライトーティーズ 緩叙法)

2 3 Rhetorical Question (修辭疑問文)

2 4 Pun (Play of words パン だじゃれ)

2 5 Paronomasia (パラノメイジア かけことば)

2 6 Apostrophe (アポストロフィ 頓呼法)

2 7 Archaism (アーケイズム 古語)

2 8 Hyperbaton (ハイパーバトン 転置)

2 9 Oxymoron (オクシモロン 矛盾語法)

3 0 Tautology (トートロジー 類語反復)

3 1 Zeugma (ズィウグマ くびき語法)

3 2 Epigram (エピグラム 警句)

3 3 Exclamation (詠嘆法)

3 4 Conventional Epithet (コンベンショナル エピセツト 常とう形容辞)

3 5 Hysteron Proteron (ヒステロン プロテロン 前後倒置)

反復法について

Anaphora (アナフォラ 首句反復)

Epistrophe (イピストラフィ 結語反復)

Climax (クライマックス 漸層法)

Anticlimax (アンティクライマックス 漸降法)

Epizeuxis (エピジュークシス 疊語法)